

関西中小 攻めのベア

大手超え目立つ

ヤマキン 生産性向上を還元

関西の中小製造業が2017年春の労使交渉で、基本給を引き上げるベースアップ(ベア)に取り組んでいる。大手企業の妥結額が多かった月額1千〜1500円を上回る回答が目立つ。円安・ドル高が輸出関連の中小企業に追い風になっている面もあるが、人手不足が続く中で人材確保のため賃上げや待遇改善に踏み切る、反転攻勢を目指した判断といえそうだ。

機械・金属関連のメーカーの労組でつくる、ものづくり産業労働組合(JAM)大阪支部によると3月末時点の集計で大阪、奈良、和歌山の1府2県の中小企業(従業員300人未満)のベア平均額は1313円だった。大手・中堅企業(同

300人以上)は1172円。16年よりいずれもベアは縮小したが中小が2年連続で上回り、差も広がった。

JAM大阪は「大手との賃金格差があり、給与水準を引き上げないと中小に人が集まらない」とみている。

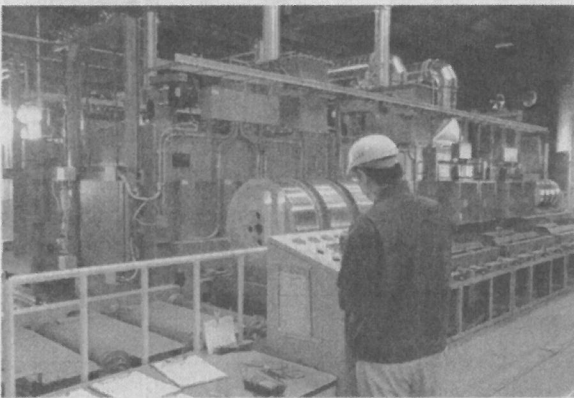
電線製造のヤマキン(大阪市)は昨年より150円高いベア1500円を実施すると労組に回答した。三重県の工場では今春、アルミ電線の製造工程の一部を自動化しており夜勤を廃止、残業時

間も減る見通し。山城健一社長は「生産性向上に賃上げで応える」と話す。ソファ部品の向陽技研(堺市)は平均約3千円のベアを実施する。円安で輸出が伸びる見込みと、いい従業員に還元する。

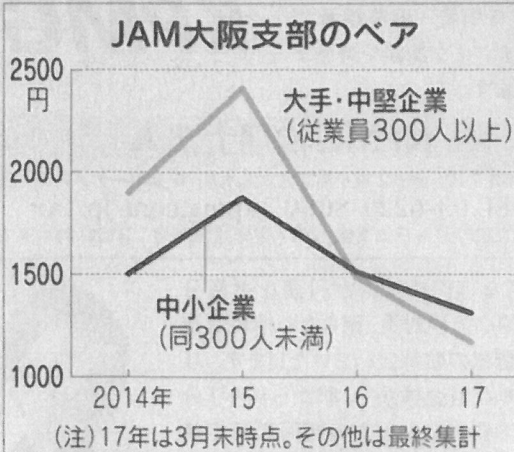
日銀の企業短期経済観測調査(短観)によると、近畿2府4県の中小製造業の3月の雇用人員判断指数(DI)はマイナスインドルで昨年12月の調査から10%悪化した。人手不足の解消や若手の定着を狙い賃上げする企業も多い。

ベアが大手企業を上回る中小も目立つ

社名	月額や概要
▼ベア	
ヤマキン(大阪市)	昨年より150円高い1500円
向陽技研(堺市)	平均で3000円前後
新居紙器(大阪市)	総賃金の1%以上
大和軽合金工業(東大阪市)	5月に実施予定
パナソニック	昨年より500円少ない1000円
トヨタ自動車	昨年より200円少ない1300円
▼ベア以外の待遇改善	
ユニソンプラネット(大阪市)	確定拠出型年金を導入
神戸デジタルラボ(神戸市)	短時間勤務を導入



ヤマキンは生産性向上に賃上げで応える



稼働率を上げた。日本経済の回復に貢献する。企業は生産性向上に賃上げで応える。労働市場の改善が求められる。